

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2024/12/19ver)／アクションプランシート（スポーツ科学部）

基本方針	2022年度スポーツ科学部は組織の能力向上と確立を図り、多角的に準備を行い2024年の完成年度を無事に迎えることを基本方針とする。					
	①スポーツ科学部運営委員会、将来構想ワーキンググループ、各委員会活動を通して、経営学部と協働してスポーツ科学部の組織的活動を確立する。 ②半期ごとのPDCAサイクルを基本として各課題の可視化を図る。 ③磐田市や静岡県などとの地域連携を積極的に進める。					
最重要事項	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点	
1. 2024年度入学者の安定的確保 1)入試制度を確実に実行し、定員120名を確保する 2)入試種別ごとの目標値を定めるとともに、スポーツレヴェンション入試の推進を図る 2. 学生確保のための広報・募集活動の実施 1)入試広報における、Web、SNS等デジタル情報の提供の充実を図る 2)入学者実績高校への訪問を行う 3)静岡県内外や女子高校生への広報活動を積極的に行う 4)スポーツ科学部と経営学部の差異を明確に示すよう広報に努める	1.2. 2024年度は136名(113%)の入学者がありそのうち県外からは40%であった。2025年度入試では県外者・女子の増員に努め12月中の定員確保を目標にする。その為にはスポーツ推薦入試（選手型・マネージャー型）やアーリーディンジョン入試を採用する。 目標値の設定並びにスポーツプレゼンテーション入試も2024年度と同様に行う。 2. 1)入学者実績高、並びに未実績高に学部長が上期にできるだけ訪問する。 2)6月大学説明会時には就職内定速報を伝える。 3)OC体験授業の年間担当教員を文系・自然科学系・教育系を偏らずに配置する。	1,2. ◎月一回開催の学生募集WGと和田入試委員長と入試運営委員会の尽力で、年内120名の定員充足を目標に様々な改革を実現してきた。オープンキャンパスも工夫をこらし、学部のチラシ作成もでき、広報に尽力している。 ●年内入試において、定員120名を確保することを目標としている。近年の大学入試では、年内の専願入試での定員確保を目標とする大学が増加している中で、特に中堅以下の大学にとっては年内入試でいかに受験生を確保していくことができるのかが重要視されている。しかしながら、様々な入試改革をしたが、まだまだ入試情報が周知されておらず、入試運営委員会が中心となって、入試課、広報メディア課、参与などが一体となって活動できるのが課題であると考えられる。オープンキャンパスについては、学部の入試運営委員会内にワーキンググループを作って、体験授業の内容や教員配置について、十分な検討を加えながら計画、運営に努めており、成果を残していると考えられる。		◎学部長（高橋） ●副学部長（和田） △入試課（鈴木） △広報・メディア課（岩崎）		
3. 認証評価の準備 1)4年間のアフターケアに十分応えられるような実績評価の基準作成と評価法の策定を図る 2)教員各自が「教育・研究・大学貢献・社会貢献」を計画的に立案する	3. 文科省のアフターケアへの対応は完成年度を迎える2024年度の“履修状況報告書”を作成・提出する。懸案になっていた教員年齢も若手教員を3名採用でき、経営学部の入学定員や心理経営学科の定員確保も、何とかクリア出来そうである。 2022年度の認証評価において、施設を活かした授業展開や冠講座が高評価であり監事監査でも同様な評価であった。2023年度からは静岡ブルーレヴズの冠講座も加わり多彩な実学教育が実施できる。 教員人事評価は学部長面接を3月に終了し、教員各自の2023年度の振り返りと2024年度の計画立案の契機とする。新任教員3名も4月早々に行う。	3. ◎2024年5月に“履修状況報告書”を提出した。懸案の「教員年齢の引き下げ」「経営学部の定員確保」もでき、懸案事項はクリアしたと考えている。教員の科研費取得も増え、大学事業や社会貢献に尽力している。2023年度に監事監査で指摘された施設使用に関しても、学部使用の現状を報告した。教員人事評価の学部長面接は4月に終了し、教員各自の2024年度の計画実施を明確にさせた。 ●文部科学省からは、特段問題の指摘は受けておらず、順調に完成年度を迎えることができた。申請当初からわかっていたことであり、懸案事項とは考えていないが、高齢教員についてはそのうち3名が今年度に退職予定であるところから、今後指摘事項にはならないのかと思われる。中堅若手教員を中心に、教育・研究も実施されており、地域に根差した大学という目標にもみ合う地域貢献がなされていると考える。		◎学部長（高橋） ●副学部長（和田） ●事務局次長（甲斐） △企画調整室（澤野） △総務課（森）		

	最重要事項	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p>4. 教育の質保証とその可視化</p> <p>1)教育課程の準備状況の点検と確立を図る</p> <p>2)3ポリシーの組織的浸透を図る</p> <p>3)在学生の単位修得状況の把握と離学者対策を図る</p> <p>4)学業と運動部活動の両立を図るよう、教職員が一体になって支援する</p>	<p>4.</p> <p>“教育の質保証とその可視化”に関して2023年度の学生の授業評価を受けた改善を各教員が行う。2024年度は完成年度を迎える為、2025年度のカリキュラム改革を上期に教務委員を中心に計画する。その際、学生が選択できる科目の増設を図る必要がある為、講義や実技の受講数を可能な限り増やす手立てを行う。学生の学力保障は、学習習慣や基礎的の学力をつける為に授業を通して思考し課題解決できる力や、他者とのコミュニケーション力をつける機会を設ける。</p> <p>学生の単位修得状況については、教務が3月に全学生の状況を各先生に伝え、在学生オリエンテーション時に学年の主任アドバイザーやゼミ担当教員が学生にフィードバックを行い、離学者対策を図っている。</p> <p>4年生には卒業単位の取得について丁寧に指導を行い履修登録に備えている。教育課程における履修モデル「スポーツ科学実践・健康づくり・スポーツ教育」の具体的な科目事例を2022年度に学生に提示したのを受け、就職に繋がるような学びを「なるとはシート」に記入させ支援している。</p> <p>さらに、静岡県教員採用試験が全国に先駆けて5月に実施される為、教員採用突破塾を推奨し支援している。</p>	<p>4</p> <p>◎“教育の質保証とその可視化”は、学生の授業評価やFD研修会を通して、各教員が改善の努力を行っている。3ポリシーの組織的浸透については『大学案内』に明示し教職員や学生に浸透を図っている。2025年度のカリキュラム改革は、運営委員会や教務委員会を中心に策定し、教授会での協議を重ね上期に立案が通った。その際、教員の科目負担や大学の予算圧縮を危惧し、スクラップ&ビルドを基本にした。学生の単位取得状況の把握と離学対策は、教務委員やゼミ担当教員がきめ細かに対応している。また、学業とクラブ活動の両立については、オープンキャンパス時や基礎ゼミも含め、両立が重要であることを強調してきた。課題としては、各教員の授業内容の重複、学生への調査（授業評価、PROG、各アンケート）の有効性の検証、学納金に見合ったサービス等、なされているかどうかも含め、検証が必要である。</p> <p>●教育の質保証という課題は、なかなか評価することが難しい面がある。経営的な立場を考えれば、学生をたくさん入学させることは重要ではあるが、その反面教員数や施設面では学生の不満が高じかねない。ゆくゆくはそのことが評判になって、受験生が減少することに跳ね返ってくるかもしれないことをわきまえないといけない。また、教育の質保証の内実についていえば、個々の教員の努力に負うところが多く、FDアンケートなども十分機能しているとは思えないところがある。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>●教務委員長（徐）</p> <p>●スポーツ振興部部长（広岡）</p> <p>△教務課（中村）</p> <p>△スポーツ振興部（浦田）</p>	

		項目別アクションプラン				
		2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<教育>					
	1. 教育方法ではonlineと対面授業のバランスを図ると共に、情報機器を有効活用した授業を実施し、「データサイエンス・AI教育プログラム」認定申請に伴いスポーツ科学に係る測定及び分析を推奨し情報に強い学生を育成する。「静岡産業大学ダンスのタベ」(2024年12月22日開催:静岡産業大学創立30周年記念事業)に際し、ダンス授業2作品の出展等を通し、本学からダンス文化を発信する。	1.2. ◎教育方法ではonlineと対面授業のバランスを図り、「データサイエンス・AI教育プログラム」が認定され、情報機器を有効活用した授業の実施を強化した。その一方で、メンタル的に厳しい状況におかれている学生への細やかな対応が必要になる。「静岡産業大学ダンスのタベ」(2024年12月22日開催:静岡産業大学開学30周年記念事業)に際し、ダンス授業2作品の出展や、市民グループといわた総合スポーツクラブの体操スクール生の賛助出演や、磐田市内の東西南北の高校の出演も実現するため、本学からダンス文化の発信が推進される。両学部間履修については、オープンキャンパスや教職員や学生に周知してきた。			◎学部長(高橋) ●教務委員長(徐) ●教職委員長(松永) ●学生委員長(館) ●スポーツ振興部部長(広岡) △スポーツ振興部(浦田) △総務課(甲斐) △学生支援課(萩原) △教職委員会・教務課(中村)	
	2. 「デジタルサイエンス×スポーツサイエンス」「スポーツ×経営」「幼児から高齢者までの健康・運動推進」等、30単位の学部間履修を周知し、就職を意図した学びを推進する。					
	3. スポーツ科学部において実施される授業科目において、各教員の授業内容を共有し差異化を図る。新採用のスポーツ経営領域の教員を中心に、4つ目のプログラム「スポーツ経営」(仮称)を立案する。	3.◎スポーツ科学部の4つ目のプログラム「スポーツチームマネジメント」を立案し、広報活動を始めている。				
	4. 施設・設備の管理体制を図る為、関係部署(教務・総務・スポーツ振興部)との連携を密にする。スポーツ施設修繕計画については「整備改革WG」が中心になり2023年度は陸上走路の改修を行った。2024年度はトレーニングルームの修繕を行うと共に、テニスコートの修繕計画を立案する。	4.◎「整備改革WG」が中心になり、数年の遅延を経て2024年度下期に「トレーニングルーム」の修繕を行う。テニスコートの修繕計画は継続審議になっている。				
	5. 主任アドバイザー制度を継続し、1~4学年まで担当教員を配置する。	5.◎主任アドバイザー制度により1~4学年まで担当教員が配置され、機能している。				
6. 教職課程の指導に関しては、入学前の2024年3月に開催した教員養成キックオフカンファレンスでは広報不足で6名の参加であったため、今回は工夫する。在学時の教員採用突破塾や教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努める。	6.◎教職課程の指導が開学以来の成果を挙げ、上期は7名の教員採用者になった。 ・昨年度までと比べて教職課程履修を履修する1年生が少なかった。教職の魅力発信の方法を引き続き検討する。教員採用試験や教育実習に向けた指導・支援は、個々の学生の状態に応じてきめ細やかに行うことができ、合格者増加という成果につなげることができた。					

<p><研究></p> <p>1. 紀要第9巻の編集及び発刊は、学部付置のスポーツ教育研究センターが担当する。ただし、紀要の発刊元の表示は「スポーツ科学部」に変更する。全教員の投稿を目指す。</p> <p>2. 編集委員会機能や査読の厳格化は2022年度で確立したので、2024年度も同様に行う。</p> <p>3. 特別支援経費配分区分が年度で変更がある為、留意して申請し可能な限り採択を目指す。</p> <p>4. 倫理委員会は外部審査員も加えて年に2回online開催とし、倫理規定をクリアした論文の掲載を促進する。</p> <p>5. 科学研究費の獲得を目指す。2024年度採択は3件決まっている。2025年度においても、特に50歳代以下の全教員は申請する。さらに、外部資金による研究費の獲得を目指し申請を行う。財団法人日本安全協会が支援する補助金申請は不採択の通知が2024年3月にきている。</p>	<p>1.2.3.4.5.◎ 紀要第9巻1号は2件の掲載になった。下期発刊予定の2号は多くの投稿を期待している。また、紀要第9巻から、紀要の発刊元の表示は「スポーツ科学部」に変更する。特別支援経費についてはスポーツ科学部教員の採択も多く、それに関する研究論文の投稿・掲載も責任を持って行う。倫理委員会は外部審査員も加えて年に2回online開催している。科学研究費2024年度の新しい採択数は3件決まった。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ教育研究センター（宮崎）</p> <p>△いわた総合スポーツクラブ事務局（広岡・浦田）</p>	
		<p>◎●学部長・研究倫理委員会（高橋）</p> <p>△総務課（甲斐）</p>	
		<p>◎●学部長（高橋）</p> <p>△総務課（甲斐）</p>	

2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
<p>6. SSUスポーツ・健康科学セミナー開催は例年好評であり高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行ったため、2024年度もZoomウェビナー型セミナー開催を行う。</p>	<p>6.8.◎スポーツ教育研究センター及びスポーツ医科学研究センターの活動の一つである「SSUスポーツ・健康科学セミナー」は、11月にスポーツの著名人を講師に迎え、対面とオンライン開催する。これまでも好評であり、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報にも寄与している。また、センターが中心となった共同研究も継続している。</p> <p>●スポーツ・健康科学セミナーは、下半期に開催予定である。2023年度と同様、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行う。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ医科学研究センター（中井）</p> <p>△教務課（中村）</p>	
<p>7. 全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励む。2025年3月の「スポーツ人類学会」開催（予定）には学部を挙げて協力すると共に、地域やプロスポーツ団体等の研究協力を積極的に行う。</p>	<p>7.◎全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励んでいる。2025年3月15-16日「スポーツ人類学会」開催には学部を挙げて協力すると共に、地域への広報も積極的に行う。</p> <p>●スポーツ医科学センターを中心に、袋井市の高齢者研究、ブルーレヴズなどのプロスポーツチームとの研究協力を推進している。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ教育研究センター（宮崎）</p> <p>●スポーツ医科学研究センター（中井）</p> <p>△教務課（中村）</p> <p>△いわた総合スポーツクラブ事務局（広岡・浦田）</p>	
<p>8. スポーツ教育研究センター及びスポーツ医科学研究センターの活動を推進する。これまでの「紀要・ニュースレター発刊・セミナー開催」はもとより、2023年度はセンターが中心となった共同研究も開始されたため、2024年度も継続して推進する。</p>	<p>8.●学生生活調査、スポーツ選手のサポートに関する研究グループを設置し、研究を推進した。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ教育研究センター（宮崎）</p> <p>●スポーツ医科学研究センター（中井）</p> <p>△教務課（中村）</p> <p>△いわた総合スポーツクラブ事務局（広岡・浦田）</p>	

スポーツ科学部

<p>＜入試＞</p>	<p>1. 2025年度入試では、年内専願入試での学生定員確保を重点課題にする。2024年度入試では総合型入試での合格者数が増加している反面、スポーツプレゼンテーション入試とスポーツ推薦入試では減少傾向にあった。そのため、2025年度入試改革案①アーリーディンジョン入試②スポーツ推薦入試（トップアスリート推薦、マネージャー推薦）③社会人入試等を策定した。スポーツ推薦入試については、スポーツ振興部と連携して対策を検討していく。今年度で4学年揃う為、各学年の入学から卒業までの傾向を分析し、入試・広報の確実な実施のため、教職員（入試委員・入試課・広報メディア課・参与・受験生募集検討ワーキンググループ・学生募集戦略会議等）が一体となった会議を開催し、前例にとられずスピーディな企画・実行を行う。</p> <p>2. オープンキャンパス（体験授業・動画配信等）、出前授業・大学説明会（学生の動向や就職傾向）、学部長と参与の高校訪問等、対象・時期に応じて、方法を柔軟に変更する。</p> <p>3. 入学定員120名以上150名程度を確保するとともに、女子学生入学率を上げる努力をする。その一方で、2023年度の強化部の不祥事対応により、教員の強化部部長への積極的就任が危惧されており、大学全体のリスク管理やガバナンスも課題である。</p>	<p>1,2,3</p> <p>◎120名の定員を年内に確保することを目標にしている。そのため、2025年度入試に関しても様々な改革を行ってきた。ただし、私立大学の6割が定員未充足の状況下であることから、本学部より偏差値が上位の大学に受験生が流出している。これまで以上に、「学生募集戦略室、スポーツ科学部学生募集WG、入試運営委員会、入試・広報室・スポーツ振興部、経営学部」との連携が必須になる。</p> <p>●年内入試での定員確保が目標である。アーリーディンジョン入試は、ほぼ想定内の人数を確保しているが、スポーツ推薦は減少傾向にある。プレゼンテーション入試は他の準備に容易な入試に移行する傾向がみられるが、質の良い受験生を獲得できる入試であるところから、今後の改善に期待するところである。全国4000校に拡大した指定校推薦入試で十分な受験生を獲得できるかが、年内定員確保にとって最大の鍵である。スポーツ科学部では、入試運営委員会が入試についての最終決定機関として、そのための実質的で適切な議論ができる環境ができていく体制を維持していくことが重要である。また、オープンキャンパスや出張授業、大学説明などでもまだまだ改善点があり、他大学の効果的な方法に学びながら改善を進めている。</p>		<p>◎学部長（高橋） ●副学部長（和田） △入試課（鈴木・吉川） △広報・メディア課（岩崎）</p>	
-------------	--	---	--	---	--

	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
	<p>＜広報＞</p> <p>1. 大学ホームページ（動画配信含む）、各メディア、広報誌への発信を情報共有しながら協力して積極的に行う。磐田キャンパスではスピーディな広報活動を行うため、2023年度から業者委託（動画や写真撮影）が開始された。また、2018年度から磐田キャンパス内に広報担当職員配置を希望していたが、ようやくかなったため更なる入試広報を活性化する。</p>	<p>1</p> <p>◎広報に関しては、大学広報、入試広報が主になる。その際、今まで以上に、企画調整室・入試・広報室と教員組織の委員会（入試運営委員会・就職委員会等）の連携を密にとり、学部長への報告がきちんとされる必要がある。</p> <p>●情報をいかに有効に発信していくことができるのかは、入試広報だけではなく大学の広報にとっても重要なことである。大学やスポーツ科学部の地名度は全国はおろか県内にも十分とはいえない。磐田キャンパスにおける広報担当が入試委員会と緊密に連携を取り、入試情報の周知徹底が十分なされる必要がある。</p>		<p>◎学部長（高橋） ●副学長（丹羽） ●副学部長（和田） △広報・メディア課（岩崎） △入試課（鈴木）</p>	

<p>スポーツ科学部</p>	<p><地域貢献></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康科学研究セミナー開催。 2. 地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携による地域への啓蒙活動。 3. 磐田市等との産官学民の活動強化（ジュビロ飯、市民のロコモ対策、運動指導等） 4. スポーツ団体との協働（スポーツ選手の各種測定協力等） 5. ダンス文化の発信「静岡産業大学ダンスのタベ 2024年12月22日 かたりあ」 6. 「ヨガ・ボディメイク教室」実施による地域住民の参加推進 	<p>1.-6.◎「スポーツ・健康科学研究セミナー開催」「地域の教育委員会関連への教員・学生の派遣」「静岡県・磐田市・袋井市等への健幸支援（ジュビロ飯、市民のロコモ対策、運動指導、ヨガ・ボディメイク教室等）」「スポーツ団体との協働（スポーツ選手の各種測定協力等）」「ダンス文化の発信（静岡産業大学ダンスのタベ 2024年12月22日 かたりあ）」など、上期に行ったものと、下期に予定している事業がある。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ振興部長（広岡）</p> <p>●スポーツ教育研究センター（宮崎）</p> <p>●スポーツ医科学研究センター（中井）</p> <p>●総合研究所所長（中山）</p> <p>△スポーツ振興部長（広岡）</p> <p>△いわた総合スポーツクラブ事務局（広岡・浦田）</p> <p>△教務課・教職委員会（中村）</p> <p>△総合研究所（井川）</p>	
----------------	--	---	--	---	--

	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
	<p><就職></p> <p>2024年度も継続して、企業へのインターンシップ、スポーツ選手のデュアルキャリア、教員採用も含め、学生の就職への啓蒙活動を積極的に行う。就職率確保では特に、鷲崎理事・事務局長・学部長・キャリア支援課と連携し、西部地区を中心に企業を回る。就職内定速報を年間数回に渡り俊敏に情報収集発信出来るシステムの構築も行う。</p>	<p>◎スポーツ科学部初の卒業生の就職の成果は、社会的に本学部が評価される。そのために、就職委員会やキャリア支援課をはじめ、2023年度より鷲崎理事と酒井事務局長が月に一回の割合で、約6社を周り、尽力されてきた。そのためもあり、上期の段階では、教員採用数やスポーツ団体や公務員や有料企業に就職が決定している。この調子で下期の採用決定の成果を期待している。</p> <p>●鷲崎理事・事務局長・学部長が西部地区を中心とする企業を訪問し、就職活動に繋げる活動を行った。就職内定状況を経時的に把握するため、スプレッドシートを活用した情報収集システムを構築した。学生への指導やインターンシップの斡旋等を行い、教員採用試験の現役合格7名、プロスポーツチーム（ジュビロ磐田等）、公務員（藤枝市役所、静岡県警等）への就職に繋がった。</p>		<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●就職委員長（江間）</p> <p>△キャリア支援課（斉藤）</p>	
<p>スポーツ科学部</p>	<p><大学運営></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 磐田キャンパスの経営学部と互いに協力・補完し合う組織的な学内運営を図り、入学者確保、ブランド力向上、就職率確保等の相乗効果を目指す。2024年度は「スポーツ経営」の領域のプログラムを創設する。 2. 2023年度は学長・両学部長の会合を定期的で開催できなかった為、2024年度は月一回は行うように企図する。 	<p>1.2.◎磐田キャンパスでは、経営学部と互いに協力・補完し合うよう、「スポーツ経営」領域のプログラムに「スポーツチームマネジメント」を創設した。また、両学部の共通科目を多く設定するとともに、両学部間で受講できる科目を2023年度までと同様、30単位とした。学長・両学部長の会合は、必要に応じて開催してきた。</p>		<p>◎●学部長（高橋）</p>	

将来構想					
項 目	2024年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2024.9)	下期進捗状況(2025.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定（女性教員確保） ・完成年度に必要な教員数は13名であり、うち教授は7名である。 2. 将来構想ワーキンググループ（WG）開設 ・2022年度より開設し完成年度に向けて構想を練る。	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、必要教員数の13名の確保はできている。そのうち教授は7名必要であるため、2024年度には教授昇進を計画中である。また、完成年度の教員（非常勤含む）の退職に伴い、2024年度上期に人事計画立案が必要である。 2. 完成年度後の将来構想については、2024年度からは運営委員会内で行うこととした。その為、運営委員を5名から6名にし、教授会開催の前の週に開催する。	1.2. ◎2024年度の教員人事計画策定については、必要教員数13名の確保はできている。ただし2024年度退職に伴い、7名の教授を確保する為、教授昇進人事を進行中である。女性教員は3名いるが、今後新採用の予定はないため、現状維持のままである。また、将来構想ワーキンググループ（WG）を2022年度より開設していたが、新カリキュラム変更も含め、将来構想WGを解散し運営委員会を6名に増員して、この委員会が将来構想も含めて検討することにした。		◎副学長（田畑） ●学部長（高橋）	
3. 南交流センター再開発（200mトラックの設置等）の構想 ・2021年度も磐田市に相談したが、継続審議する。	3. 南交流センター再開発（200mトラックの設置等）の構想：2021年度も磐田市に相談したが、継続審議する。	3 ◎南交流センター再開発構想は継続審議する。		◎●学部長（高橋） △総務課（甲斐）	